



海自最大の護衛艦「いずも」入港に1万2千人が殺到



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、8月3日（金）から5日（日）まで、清水港日の出埠頭（静岡市）において広報活動を実施した。

これは「清水みなと祭り」に合わせて行われたもので、静岡地本の広報ブースのほか、海上自衛隊最大の護衛艦「いずも」の艦内公開、航空自衛隊T-7初等練習機・T-4中等練習機の飛行展示、陸上・航空自衛隊の装備品展示、山梨・長野各地方協力本部による広報ブースの開設も行われ、約1万2千人の来場者で賑わいを見せた。

特に県内初入港となった護衛艦「いずも」への注目度は高く、早朝から艦内公開会場入り口の前には長蛇の列ができ、開門と同時に見学希望者が岸壁に殺到した。

「いずも」の一般公開では、広い格納庫から、ゆっくりと床がせり上がるヘリコプター用エレベーターに乗って甲板へ移動することができ、見学者は徐々に見えてくる艦橋や青空に歓声をあげながらカメラを向け、シャッターを切っていた。

また、自衛官を目指す若者や医療関係者等を対象とした特別公開も行われ、乗員の生活区画やヘリコプターの管制室、手術や歯科治療なども行うことのできる広い医務室などを見学し、「いずも」の充実した設備や多岐にわたる任務に理解を深めていた。

静岡地本は、今後もさまざまな広報活動を実施し、若者や地域住民に自衛隊の活動について正しい理解を深めてもらい、防衛基盤の拡充に努めていく。

掃海艇「あいしま」初寄港御前崎みなと夏祭2018



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は8月4日（土）と5日（日）、御前崎港東埠頭（御前崎市）において、同市に所在する航空自衛隊御前崎分屯基地創立60周年を記念し、地元「御前崎みなと夏祭」に併せて広報活動を行った。

東埠頭には海上自衛隊第3掃海隊（広島県呉市）所属の掃海艇「あいしま」が初入港し、一般・特別公開を行ったほか、航空自衛隊浜松基地（浜松市）所属のT-4中等練習機が飛行展示を披露した。

掃海艇「あいしま」の一般公開が行われた東埠頭には、御前崎分屯基地と静岡地本が合同で広報ブースを開設。「Gタンク」や「しずぼん」といった自衛隊のマスコミキャラクターも登場し、両日で約1000人の来場者がつめかけた。

5日（日）には、自衛官を志す高校生等17人を対象に「あいしま」の特別公開が行われた。参加者は掃海艇の概要説明を受けた後、艦橋や食堂などの艇内や乗員によるらっぱ吹奏、爆発物処理訓練などを見学。また、水中の機雷処分任務等で使用されるゴムボートに体験試乗した。

最後に、海上自衛官志願者と「あいしま」で勤務する若年隊員が懇談し、志願者からの「親が自衛官は危険な職業なので心配している」との相談に、隊員が「誰かがやらなければこの日本は守れない。私の兄も自衛官だが、親を説得して入隊し、今では親も兄と私を誇りに思ってくれている。自分の強い気持ちをしっかり伝えるべき」と助言し、夢に向かう若者の背中を押しした。

静岡地本は、今後も自治体や部隊と緊密に連携し、艦艇広報等あらゆる機会を活用した広報活動を積極的に実施し、地域住民の自衛隊に対する正しい認識と理解の向上に努め、ひいては防衛基盤の強化を図っていく。